

「お話をつくって、骨組とお話の関係を知ろう」の解説

監修：黒上晴夫 関西大学総合情報学部教授

メディアリテラシーの基礎は、テキスト（映像、写真、絵、文章等）の正確な読み取りです。テキストとは、人が何かを伝えるために構成された情報のまとまりです。そのメッセージをしっかりと理解することから、批判的思考は生まれます。メッセージを把握するためには2つの作業が必要となります。作者が用いた表現の細部をとらえてその意味を一つ一つ自分の概念体系に組み込む作業と、要約を重ねてメッセージを極限にまで単純化する作業です。国語の読解で言えば、教材文の一文一文の意味を字義的に理解するのが前者で、作者の意図をまとめるのが後者と言えるでしょう。

この授業は後者につながる力を培うものです。さまざまなお話の背景には、プロット（骨組み）が存在することに気付かそうとしています。文章を読むときに、それがどのようなプロットで書かれているか、それによってどのようなメッセージが伝えられようとしているのかを考えさせようとするのです。

逆に、同じプロットを用いても、作者の視点や力点の置き方によって、お話の「見かけ」がちがっていることにも気付かせようとしています。そのため、実際に自分たちで同じプロットにもとづいたお話づくりにも挑戦させています。メディアリテラシーの学習は、「つかう」「受ける」「表す」の3層の活動によって成立します。2年生が行う創作活動のレベルは、まだ高くはありません。例えレベルが高くないでも、「表す」こと、それもプロットやメッセージを意識しながら表現するプロセスは、メディアリテラシーを育成するためには極めて重要だと言えます。